

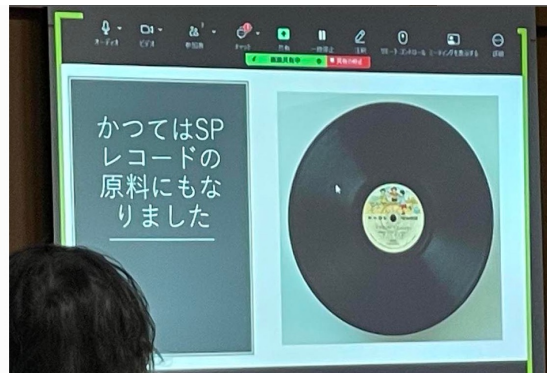
大阪市の鶴見緑地公園において、カイガラムシをテーマとする下記の講演会が開催されました。

日時 2025年2月18日
演題 「カイガラムシの生態」「昆虫の幼虫あれこれ」
講師 中谷 憲一氏(昆虫写真家)
会場 なにわECOスクエア
主催 空の会(自然環境市民大学修了生の会) 昆虫部会

以下は、担当の川井正雄氏による「空の会だより」第81号の記載内容を中心とした講演会の内容の紹介です。

~~~~~

前半のテーマはカイガラムシで、中谷先生により豊富な写真を駆使した明快な説明で様々な興味深いユニークな生態が紹介された。カイガラムシの仲間は、ほとんどすべてが果樹や観葉植物の汁を吸う害虫として嫌われ者である。しかし、ごく少数の例外として体内に蓄積される色素や体表に分泌される被覆物質が利用される資源生物のカイガラムシも存在する。カイコ、ミツバチと並ぶ三大益虫の一つであるが、虫自体やその生産物の知名度は低い。その一種、ラックカイガラムシの生産物シエラックを原料として作られたSPレコード盤と蓄音機を持参されて会場に昔懐かしい音楽が流れた。



我が国でシエラックの生産、販売を行っている株式会社岐阜セラック製造所の社長、尾木 大さんが講演会に来場された。なんと幼少時より日本最古の昆虫専門博物館「名和昆虫博物館」の会員であったという昆虫マニアである。尾木社長が岐阜から持参されたシエラック関連の種々の資料を陳列して紹介、解説をして頂いた。聴衆は、実際にラックスティック(紫鉱:ラックカイガラムシが小枝に分泌した樹脂、赤色素の原料)など様々な実物を手にとって社長を質問攻め!と大いに盛り上がった。



なお尾木社長は、講演会の終了後、中之島の大阪市立科学館に立ち寄られた。科学館には、ラックカイガラムシの1000倍の模型とともに、「寄贈:株式会社岐阜セラック製造所」と記載されたスティックラック、シードラック、精製シエラック、脱色シエラックが陳列されている(写真 右)。